

人と離れて・心は寄せて －失語症会話パートナー・コロナ状況下での模索－

失語症会話パートナー世田谷区連絡会（世パネット）

暉峻 由紀子、橋口 直子、服部 きよみ、森 千栄子、横井 美代子

（失語症 自主グループ 失語症会話パートナー）

1. はじめに

失語症は、ある日突然、脳卒中や頭のケガにより、脳の言語中枢が傷ついて起こる言語障害です。全国で50万人といわれています。医療での治療、リハビリを終えると地域での生活がはじまりますが、言語障害を持つ失語症者が地域で集える場は少ないところから、世田谷区では1997年から失語症自主グループの活動が始まりました。

自主グループ発足当初から、会話の手助けをするボランティアが参加していました。2005年に、区は失語症に対する知識とスキルを持ったボランティアとして、失語症会話パートナーの養成を始めました。失語症者と活動を共にする失語症会話パートナー有志の会が「失語症会話パートナー世田谷連絡会」（世パネット）です。

現在では12の自主グループがありますが、3月から公共施設が閉鎖になり、グループ活動は停止を余儀なくされました。コロナ状況下における失語症の方たちと会話パートナーの交流の模索を報告します。

2. 取組み

自主グループは、公共施設を利用して開催されるため、3月の施設の閉鎖イコール活動停止となりました。それ以降のコロナ状況下での失語症者と会話パートナーの交流の記録を3期に分けて報告します。

（1）休会期（3月～6月）

思いがけない4か月にわたる活動停止の期間は、基礎疾患を持つ失語症の方たちの体調、家でのお籠りの時期をどう過ごされているか、心配がつのりました。定期的集えない中で、会話パートナーはなんとかコミュニケーションを維持しようと活動を続けました。

（2）再開に向けての準備期間（6月）

5月25日に緊急事態宣言が解除されましたが、6月15日まで地域の施設は開放されませんでした。6月中旬には、多くの自主グループが利用する総合福祉センター後利用施設は7月1日利用開始と決まりました。この再開日程をきっかけとして、再開に向け「コロナ感染防止対策講座」（保健センター主催）を受講し、失語症者向け感染防止のチラシの作成、再開希望の意思確認を各グループ毎に行いました。このやりとりで、再開を希望する失語症の方、会話パートナー、それぞれのコロナに対する思いを率直に聞き合えたことは次へのステップを考えるヒントとなりました。

（3）再開後の活動（7月～10月）

各グループの慎重な判断を経て、7月再開は12グループ中5グループでした。利用施設の対応を確認し、事前の施設側の防止対策、参加者各自の参加時の注意事項等を文書にして郵送、当日に備えました。

社協の「いきいきふれあいサロン」登録のグループへは、再開当日に担当職員が参加、適切なアドバイスがあり、安心しての再開となりました。

